

## Ⅱ 各教科

### 1 国語

#### (1) 第1学年

##### ① 分析と生徒の状況

###### ア 分析

1年生の学習状況について、日々の授業や定期考査等から、以下のような特徴が見られる。

- ・授業に取り組む姿勢や課題の提出状況等、「関心・意欲・態度」は概ね良好である。積極的に挙手して発言する生徒が多いが、全く発言しない生徒もいる。班活動では課題に対して熱心に取り組んでいるが、得意な生徒がどんどん進めていくような場面が少なくないため、話し合いの進め方について指導が必要である。
- ・「話すこと・聞くこと」については、人前で話すことに慣れている生徒が少なくない。しかし、話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣いに気をつけて話す等、課題は多い。
- ・「書くこと」については、文章を書くことが好きな生徒と嫌いな生徒の二極化が顕著である。しかし、好きな生徒の中にも、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることを苦手としている生徒も多い。
- ・「読むこと」については、読書を好む生徒が多い一方で、表面的な読解に終始し、思考力や想像力を働かせて読む力は不足している。
- ・「言語事項」については、小学校で学習する漢字が定着していない生徒が多く、生徒の書いた文章では習った漢字であってもひらがなで書かれていることが多い。また、字形を整えて書くこと、真っ直ぐ枠に収まるように書くことに課題がある生徒も少なくない。

###### イ 学力の状況

1年生の国語の学力について、以下のような傾向が見られた。

- ・「関心・意欲・態度」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」のどの項目においても、好きな生徒と嫌いな生徒、できる生徒とできない生徒の二極化が見られる。
- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、抵抗感や苦手意識から、意欲的に取り組むことができておらず、能力の向上が見られない生徒が多い。
- ・学習に対する不安を抱えている生徒が多く、「どうせできない」「やってもわからない」等の消極的な発言がしばしば聞かれる。

##### ② 本校の課題

###### ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身につける。
- ・目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力や、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる力を身につける。
- ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法等を確認、読みやすく分かりやすい文章にする力を身につける。
- ・学習や日常生活に必要な漢字の読み書きの力を身につける。また、字形を整えて書く習慣を身につける。
- ・「国語の学力を向上させる」という意欲をもって、日々の学習に取り組む。

###### イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身につけたい力を具体化・明確化し、生徒に常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。

- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を積極的に取り入れる。
- ・授業プリントやワーク点検等、生徒の個々の取組を評価する機会を日常的に取り入れる。

### ③ 授業改善案

#### ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、無闇に話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするための知識をきちんと与えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「書くこと」について、自分の考えをまとめたり発表したりする活動を積極的に取り入れる。
- ・「読むこと」について、音読（速読や群読等）を取り入れる。また、物語・小説では場面展開や情景描写に注意して読み、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。
- ・「言語事項」について、「語彙を増やす」ことを念頭に置き、新しく出会った言葉を使って、文章を作ることを習慣化させる。

#### イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・1単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・毎時間授業プリントを作成する。学習内容や流れが分かるように、1回の授業でプリントは基本一枚にする。
- ・興味関心を持つような教材を充実させる。

#### ウ 家庭学習の定着

- ・5分間程度の帯時間を利用して、漢字学習を行う。「覚える」→「練習する」→「確かめる」という学習の基本的な手順を踏ませながら、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・週に一度小テストとワーク点検を行い、日頃からコツコツと学習する習慣をつけさせる。
- ・家庭学習の課題は提出を促し、点検を通じて自ら学習するように働きかける。
- ・週に一度小テストとワーク点検を行い、日頃からコツコツと学習する習慣をつけさせる。
- ・必要に応じて家庭学習の課題を準備し、知識が確実に定着するよう働きかけをする。

#### エ 授業の受け方

- ・挙手や発言をすることを奨励し、授業に積極的に参加しているという自覚をもたせる。
- ・毎回の授業の最後にその日の授業を振り返り、授業の成果を確認させる。
- ・考えを深め広げられるよう、学び合いの機会を効果的に取り入れていく。

## (2) 第2学年

### ① 分析と生徒の状況

#### ア 分析

2年生の学習状況について、日々の授業や定期考査等から、以下のような特徴が見られる。

- ・授業に取り組む姿勢や課題の提出状況等、「関心・意欲・態度」は概ね良好である。積極的に挙手して発言する生徒もいるが、昨年と比べて、全体的にやや消極的な印象を受ける。
- ・「話すこと・聞くこと」については、人前で話すことに慣れている生徒が少なくない。しかし、原稿を持たずに話すことを苦手としている生徒が多い。
- ・「書くこと」については、文章を書くことが好きな生徒と嫌いな生徒の二極化が顕著である。しかし、好きな生徒の中にも、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすることを苦手としている生徒も多い。
- ・「読むこと」については、読書を好む生徒が多い一方で、表面的な読解に終始し、思考力や想像力を働かせて読む力に欠ける生徒も少なくない。
- ・「言語事項」については、中学校で学習する漢字は定着しているが、小学校で学習する漢字が定着していない生徒が少なくない。また、文字を丁寧に書く姿勢が身についていない生徒も多い。

#### イ 学力の状況

2年生の国語の学力について、「平成31年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」の結果から、以下のような傾向が見られた。

- ・学年全体の正答率は、東京都の平均を上回っている。
- ・「話す・聞く」「言語」「読む」については、それぞれ東京都の平均を上回っている。特に、「読む」については、学級によっては、東京都の平均を大きく上回っている。
- ・「書く」については、東京都の平均を下回っている。
- ・観点によっては、学級間の差が大きい。

### ② 本校の課題

#### ア 学習面（生徒の課題）

- ・話す速度や音量、相手や場に応じた言葉遣い等についての知識を生かして話す力や、相手の発言を注意して聞き、自分の考えをまとめる力を身につける。また、原稿を読むのではなく、聞き手を意識した発表ができるようにする。
- ・目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力や、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる力を身につける。
- ・書いた文章を読み返し、表記や語句の用法等を確かめ、読みやすく分かりやすい文章にする力を身につける。
- ・学習や日常生活に必要な漢字の読み書きの力を身につける。また、文字を丁寧に書く習慣を身につける。
- ・「国語の学力を向上させる」という意欲をもって、日々の学習に取り組む。

#### イ 指導面（教師の課題）

- ・単元または1単位時間の目標や、単元を通して身につけたい力を具体化・明確化し、生徒に、常に意識させることで、生徒の学習意欲を喚起し、達成感・充実感を味わわせる。
- ・話し合い活動やスピーチ等、ねらいに沿った主体的な言語活動を積極的に取り入れる。
- ・授業ノート点検等、生徒の個々の取組を評価する機会を日常的に取り入れる。

### ③ 授業改善案

#### ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、「何のために話すのか」「何のために書くのか」という目的意識をもって取り組ませる。また、無闇に話したり書かせたりするのではなく、上手に話したり書いたりするための知識をきちんと与えた上で、取り組ませるようにする。
- ・「読むこと」について、音読（速読や群読等）を多く取り入れる。また、生徒同士で意見を交流させながら、場面の展開や登場人物等の描写に注意して読ませる。
- ・「言語事項」について、「語彙を増やす」ことを念頭に置き、新しく出会った言葉を使って、文章を作ることを習慣化させる。

#### イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・1単位時間の目標や学習活動を明確化し、生徒が常に見通しをもって授業に取り組むことができるようにする。
- ・必要に応じてワークシートを用意し、書くことへの負担を軽減させる。

#### ウ 家庭学習の定着

- ・5分間程度の帯時間を利用して、漢字学習を行う。「覚える」→「練習する」→「確かめる」という学習の基本的な手順を踏ませながら、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・ワーク（副教材）を利用し、家庭学習として予習・復習に取り組ませる。

#### エ 授業の受け方

- ・授業ノートやワークシートに「メモ欄」を設け、板書以外に、気づいたことや考えたこと等を書かせることで、授業への集中を促す。
- ・授業や単元の終わりに、必ず学習を振り返り、学習成果を確認させる。

### (3) 第3学年

#### ① 分析と生徒の状況

##### ア 分析

3年生の学習状況について、以下のような特徴が見られる。

- ・全体として、授業に対して積極的であり、態度も良好である。また、進路と関連しての学習意欲の向上も見られている。
- ・課題や宿題等は期限内に提出できている生徒が多い。
- ・「話すこと・聞くこと」では、「話すこと」に苦手意識が見られる。意見や感想はもっているものの自ら発言する生徒は特定されている。また、スピーチなどの発表の場に応じた適切な言葉遣いに課題がある。
- ・「書くこと」では、昨年度に比べ、前向きに課題に取り組み、表現を工夫した書き方が見られるようになった。しかし構成力や説得力の向上に課題が残っている。
- ・「読むこと」では、物語や小説の情景描写や言動に注意して心情を想像しながら読もうとしている。朝読書の時間も熱心に読んでいるが、ジャンルに広がりが見られない。
- ・読書に関しては、学校図書館の利用・貸し出し数が増えた。
- ・「言語事項」では、漢字に関しての関心・意欲が全体的に大きく向上した。反復学習を十分に行い、知識を定着させ、活用できるようにすることが必要である。

##### イ 学力の状況

「全国学力・学習状況別調査」の結果から以下のような傾向が見られた。

- ・「話す・聞くこと」では、都の平均を下回っている。話合いの話題や方向を捉えて的確に話す力、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す力に課題を残している。
- ・「書くこと」では論理的な文章に苦手意識をもつ生徒が多く、書く機会を増やしていく必要がある。
- ・「読むこと」では、批評的な読み方に課題が残っている。
- ・「言語についての知識・理解・技能」では、との平均を4ポイント上まわっている。漢字の読み書きの力は伸びている。小テストに意欲的に取り組み、毎回ほとんどの生徒が8割以上を取っている。

#### ② 本校の課題

##### ア 学習面（生徒の課題）

- ・目的や場面に応じた適切な言葉遣いで聞き手が理解しやすいように工夫して話す力をつける
- ・目的や意図に合った文章の形態を選択して、構成や展開を工夫して論理的で説得力のある文章が書ける力をつける
- ・物語の設定や表現などに着目し、評価しながら読む力をつける
- ・文章の構成や図表、見出しの効果を理解し、読み手に自分の考えが正確で効果的に伝わるように工夫する力をつける
- ・漢字や文法事項等など覚えなければならない知識や技能は繰り返し復習をして覚える

##### イ 指導面（教師の課題）

- ・発言しやすい、発表しやすい雰囲気を醸成する
- ・授業内容の充実に向けて教材研究に注力する
- ・生徒が課題に取り組むのに十分な時間を確保する
- ・発問や助言、ワークシートの工夫をする
- ・個々の生徒の取組状況を評価する機会を増やす

### ③ 授業改善案

#### ア 言語活動の取組

- ・「話すこと・聞くこと」では、話し合い活動やスピーチ等、意見交流の場を多く設ける。班活動では少人数の班を基本として、話す回数が増えるようにする。また場や状況に応じて敬語を適切に使うように意識させる。
- ・「書くこと」では、自分の考えをまとめたり発表したりする活動を積極的に取り入れる。根拠を明確にして書くよう意識させ、書いた文章を互いに読み合う時間を設ける。論理の展開の仕方や根拠の適切さなどについて評価し合い、自分の表現に役立たせる。
- ・「読むこと」では、複数の物語を読み比べて、人物設定や表現などの視点から評価することができるように指導する。また、構成や表現の仕方、図表の効果に着目させ、考えを深められるように助言する。

#### イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・学習目標や課題を明確にし、生徒が積極的に集中して授業に取り組めるようにする。
- ・興味関心を持つような視覚教材を充実させる
- ・毎時間授業プリントを作成する。

#### ウ 家庭学習の定着

- ・漢字の小テストを習慣化し、家庭学習を定着させる。
- ・家庭学習の課題は提出を促し、点検を通じて自ら学習するように働きかける。
- ・達成課題や読解演習等の課題を準備し、自分から学習する習慣や努力したことが目に見えるような学習環境を整備する。
- ・週に一度小テストを行い、日頃からコツコツと学習する習慣をつけさせる。
- ・必要に応じて家庭学習の課題を準備し、知識が確実に定着するよう働きかけをする。

#### エ 授業の受け方

- ・挙手や発言をすることを奨励し、授業に積極的に参加しているという自覚をもたせる。
- ・毎回の授業の最後にその日の授業を振り返り、授業の成果を確認させる。
- ・考えを深め広げられるよう、学び合いの機会を効果的に取り入れていく。